

第7講

文化はどのように管理・流通するの？

加藤 真由美（岐阜女子大学）

情報社会においてデジタル化・データの蓄積をする意味について理解し、具体的なデータの管理方法および流通方法について学びます。また、情報社会におけるデジタルアーカイブの管理と流通の重要性についても考えます。

【学習到達目標】

- ・ デジタルアーカイブの資料データの管理に必須であるメタデータの役割について説明できる。
- ・ データの流通について多様な発信方法があることを理解し、説明できる。
- ・ 情報社会においてデータの管理と流通が重要である理由を説明できる。

1. 現代社会とこれからの社会を知ろう

（1）現代社会を表す3つのことば

現代の社会情勢を表すことばを以下に3つ紹介します。

①VUCA

Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の4つのワードの頭文字を取った造語で、様々な事柄や課題などにおいて複雑性が増し、変化が激しい状況をあらわします。1990年代後半にアメリカ合衆国で軍事用語として発生しましたが、2010年代になってビジネス分野でも使われるようになりました。変化が激しい時代だからこそ、一人ひとりが、客観的な情報を集める力、それを分析・判断する力、行動する力、柔軟な対応力を身につける必要があります。

②Society5.0

人類の社会は、狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）と発展し、これに続く社会として日本政府が示した「新たなデジタル社会の姿」をさします。持続可能な社会と先進技術が融合するアイデアは他国も関心をよせています。

③D X

デジタルトランスフォーメーションの略語です。多様なデジタルデータやデジタル技術を活用し、よりよい社会を築くプロセスです。デジタル変革ともいい、

デジタル技術を効果的に活用し、よりスマートな生活スタイルの確立をめざします。

これら3つのことから、今後の社会ではこれまで以上に情報リテラシー、メディアリテラシー、デジタルリテラシーが求められるということ、さらに社会を変革していく鍵となるのが「デジタルデータ」であり、信頼できる情報やデータを「いつでも」「だれでも」「どこでも」活用できる状態で蓄積しておく必要があるということがわかります。

変化が激しい社会情勢において、蓄積されたデータの分析やデジタル技術の活用により、わたしたち自身で身近な課題を見つけて解決し、よりよい社会に変革していくことが求められています。

（2）情報のデジタル化・蓄積の意義

社会には様々な「コミュニティ」が存在します。それぞれの「コミュニティ」で、それぞれの「文化」が、それぞれの手段や方法で習得・共有され、現在に伝達・継承されています。

コミュニティとは「共通の目的や興味、地域などによって結びついた人々の集団」をさし、家族、親族、友人、学校、企業、地域、市町村などの地域社会、県、国などが例として挙げられます。人は生きていく中で複数のコミュニティに身を多様な文化や価値観に関わりながら社会生活を送っています。

2. デジタルアーカイブのプロセスを確認してみよう

デジタルアーカイブには「資料の記録と整理」、「資料の保存と管理」、「情報の発信と伝達」、「評価と改善」の4つの主なプロセスがあります。

各プロセスの概要を **第6講の2.（1）**で確認しましょう。

各プロセスにはそれぞれ留意点がありますが、ここでは管理のプロセスである【プロセス② 資料の保存と管理】と、流通のプロセスである【プロセス③ 情報の発信と伝達】の留意点について見てみましょう。

【プロセス② 資料の保存と管理の留意点】

- ・メタデータの項目は収集する資料の分野などによって異なります。
- ・他の機関のデータベースも横断的に検索できるようにするため、メタデータの項目を作成する際は、近隣の施設や市町村、大学、ミュージアム等と統一したメタデータ項目にするなど、連携が必要です。
- ・メタデータの作成を複数人で継続的に行うことを前提に、項目の説明や用語などの仕様やマニュアルの作成をすると良い。
- ・利用者の二次利用を考慮して権利処理の条件等も記録します。

【プロセス③ 情報の発信と伝達の留意点】

- ・デジタルアーカイブにおいて、データベースの公開は重要な評価項目のひとつです。
- ・インターネット等での公への発信は、多様なデータの視覚化につながります。
- ・多様な利用者に適したインターフェイスの提供に努める必要があります。
- ・利用者参加型デジタルアーカイブの構築は、それら利用者にデジタルアーカイブに興味を持ってもらったり、利用する機会を増やすことにつながります。
- ・国立国会図書館はコンテンツアーカイブ（ウェブアーカイブ）を行っています。これにより、時間の経過とともに変化するウェブコンテンツを記録、保存しています。

このように多様で大量の知恵や情報、デジタルデータを収集、保管、発信するデジタルアーカイブは、わたしたちの暮らしの基盤です。

3. デジタルアーカイブのデータの管理と流通を見てみよう

（１）データの管理

デジタルアーカイブでは、デジタルデータはデータベースで管理します。その際に、原則ひとつのデータにメタデータを作成して「データベースに登録」します。そのため、データベースには大量の有益なデータが保管されています。メタデータには、以下の３つの役割があります。

そのため、メタデータの作成の際は、複数の信頼できる情報源から情報を集めて作成・記録する必要があります。

- ①利用者がデータベース内を検索した際に、効率的効果的に利用者のニーズにあったデータを取り出せるようにする。
- ②管理者が大量で多用な資料の管理をしやすい。
- ③利用者が知ることができるようにデータの価値を記録する。

（２）データの流通

データベースに登録されているデータを用いて、様々な流通できるメディアを作成することができます。次に主な流通方法とその特徴および利点を示します。

①WEB サイト

特徴：インターネット上に構築された複数のページからなるオンラインの情報プラットフォームであり、世界中に発信されます。

利点：世界中の利用者がアクセスできます。多様なメディア（テキスト、画像、動画、音声）を組み合わせで情報提供ができます。

②電子書籍

特徴：本や雑誌などの書籍をデジタル形式で提供する。通常は専用のリーダーまたはアプリで読めます。

利点：モバイルデバイスで手軽にアクセスできます。検索やハイライト、メモ機能などが利用できます。

③配信動画

特徴：動画コンテンツをオンラインで提供しています。YouTube や Netflix などが代表的なコンテンツプラットフォームです。

利点：視聴者が選択したタイミングで視聴でき、幅広いジャンルのコンテンツが提供されています。

④メタバース

特徴：コンピューターの中の3次元の仮想空間で、利用者は自身の分身であるアバターを操作してアクティビティやコミュニケーションが可能です。

利点：利用者はリアルタイムでの仮想体験ができ、ソーシャルインタラクションやビジネス活動などの展開、教育分野への活用も可能です。

⑤アプリケーション

特徴：特定の機能や目的を果たすためのソフトウェアです。

利点：ユーザーエクスペリエンスを最適化し、特定のタスクを効率的にこなすためにデザインされています。

⑥印刷物

特徴：紙媒体を用いた情報伝達で、書籍、新聞、雑誌などが含まれます。

利点：物理的な形態で提供されるため、デジタル機器の操作が苦手な利用者も手に取りやすく、実物を手元におくことができます。

⑦教材

特徴：学習目的で利活用されるコンテンツであり、テキストブック、ワークシートなどが含まれます。近年の ICT 教育においては、デジタル教材に動画・音声コンテンツやゲームなども含まれています。

利点：教育目的に特化した情報提供で、構造的で体系的な学習ができます。

⑧リーフレット・パンフレット類

特徴：掲載スペースに制限がありますが情報の要点を簡潔に伝える工夫が凝らされています。観光やビジネスの分野においても活用されています。

利点：コンパクトで手軽に持ち運びができます。二次元コードを掲載すると、印刷物から WEB サイトにアクセスすることができ、詳細情報を利用者に提供できます。

この他にも多様な流通方法があり、利用者の特徴や流通方法の特徴と利点等を考慮し合致した流通方法を選択します。また、1つの方法だけでなく、複数の方法を取り入れると、より多くの人々に情報を提供することができます。

4. まとめ

(1) デジタルアーカイブにおける「管理」と「流通」

デジタルアーカイブのプロセスにおいて「管理」と「流通」は重要なパートです。蓄積されたデータがメタデータによって管理されていなかったら、利用者はどのようなデータか知ることもできませんし、その後、データを活用して創造したコンテンツを「流通」することもできません。また、単にデータベースの中にデータが蓄積だけされても、データの存在を認知されていなければ、それは「ない」のも同然です。

今後、デジタルアーカイブのデータを多くの人と共有し、新たな創造のために活用してもらうためにも「管理」と「流通」は重要なプロセスなのです。

(2) デジタルアーカイブの世界的な動き

欧米では、デジタルアーカイブが様々な分野で盛んです。多くの文化機関や大学、図書館、ミュージアムなどが、デジタル技術を活用して、歴史的な文書、写真、映像、音声などの資料をデジタルアーカイブとして保存し公開・共有・利活用しています。これにより市民の文化遺産保存への興味関心や知的好奇心の向上を高めることにつながります。

中国や韓国もデジタル技術の発展はめざましく、国を挙げてデジタル技術を幅広く活用した社会的サービスやプロジェクトを行なっています。

日本のデジタルデータの利活用できる社会的しくみは、欧米、中国、韓国と比べて遅れているといわれており、様々な分野でデジタル技術を身につけた人材不足が指摘されているのが現状です。それを解消するためにも、デジタルデータの運用に関する知識や技術を身につける必要があるのです。

課題

1. デジタルアーカイブにおいて、なぜ管理と流通が重要なプロセスであるのか、具体例を挙げて説明しなさい。